

6 行事予定

6.1 第2回 フィールドシンポジウム in 仙台 都市河川の自然創生を考える ～広瀬川の清流を守る取り組み～

応用生態工学会 仙台

橋本正志 (株) 復建技術コンサルタント

応用生態工学会 仙台では、第2回目の全国版フィールドシンポジウムとして、「都市河川の自然創生を考える」をテーマに、広瀬川の清流を守る取り組みに関する現地見学・講演会を平成22年7月1日(木)～2日(金)の2日間実施致します。本シンポジウムは(社)建設コンサルタント協会の継続教育(CPD)の認定プログラムとなっています。奮ってご参加下さい。

① 開催期日

平成22年7月1日(木) 現地見学会(広瀬川中流域)

7月2日(金) シンポジウム

場 所：仙台青年文化センター

主 催：応用生態工学会 仙台

協 賛：東北環境アセスメント協会

後援(予定)：国土交通省東北地方整備局、宮城県、
仙台市、(社)建設コンサルタント協会東北支部

② スケジュール

【7月1日(木)：現地見学会】

◆現地見学会(定員：40名)

仙台駅西口バスプール集合(12:45)→アユの遡上(郡山堰魚道)→中州・寄州の撤去→石河原の創出(澱地区)→交流会会場(17:00)

◆交流会(KKRホテル仙台：仙台市青葉区錦町1-8-17

TEL：022-225-5201)

市営地下鉄 勾当台公園駅：徒歩 7分, JR仙台駅：徒歩 15分

【7月2日(金)：シンポジウム】

◆趣旨説明……………9：40～9：45

大村 達夫(東北大学大学院工学研究科 教授)

◆基調講演……………9：45～10：45

「(仮)多自然川づくりの現状と課題」

萱場 祐一((独)土木研究所 自然共生研究センター)

◆事例・研究発表(変更の場合あり)・10：45～12：05

1) 広瀬川の清流を守る条例について

淀川 晋一(仙台市建設局河川課広瀬川創生室 室長)

2) 広瀬川の土砂輸送特性について

真野 明(東北大学大学院工学研究科 教授)

3) 広瀬川の水質について

西村 修(東北大学大学院工学研究科 教授)

4) 広瀬川とのかかわり方

谷田貝 泰子(特定非営利活動法人

水・環境ネット東北)

◆パネルディスカッション(13：00～15：10)

座長：大村 達夫(東北大学大学院工学研究科 教授)

パネリスト：

萱場 祐一((独)土木研究所 自然共生研究センター
センター長)

西村 修(東北大学大学院工学研究科 教授)

竹門 康弘(京都大学防災研究所 准教授)

久保田 裕(宮城県土木部河川課 課長)

淀川 晋一(仙台市建設局河川課広瀬川創生室 室長)

高橋 万里子(特定非営利活動法人

水・環境ネット東北)

③ 参加費

●現地見学会 1,000円(参加費)

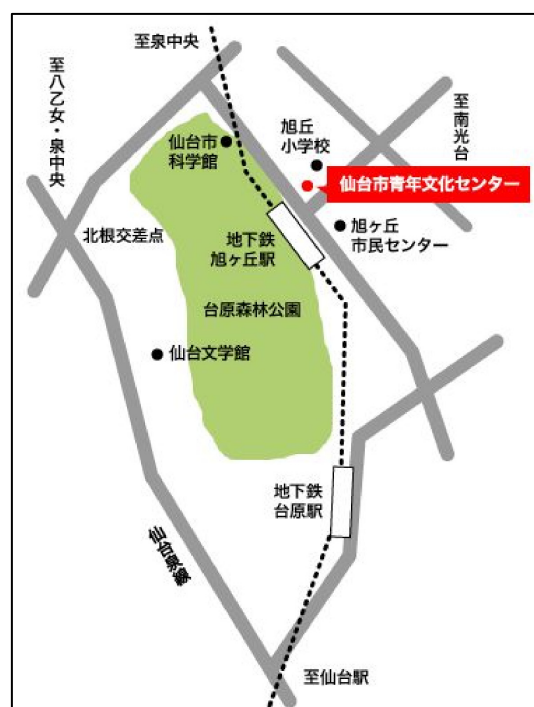
●シンポジウム 500円(資料代)

●交流会 5,000円(参加費)

【シンポジウム会場と交通】

●会 場：仙台市青年文化センター

〔〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5〕



- 交通：仙台駅から市営地下鉄・泉中央方面行き10分、
「旭ヶ丘駅」下車、東1番出口より徒歩3分

④ 申込み・問合せ先

- 添付申込み用紙に記入の上、ファックスして下さい。同等内容のEメールでも受け付けます。

- 締め切りは平成22年6月25日（金）です。

- 問合せ先：応用生態工学会 仙台

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25

復建技術コンサルタント内(橋本正志, 佐藤高広)

TEL : 022-217-2024・FAX : 022-217-2036

E-Mail : masasih@sendai.fgc.co.jp:

学会URL : <http://www.ecesj.com/J/index.html>

6.2 淡水魚保全シンポジウム 三重県明和町大会

～水辺のやさしい関わり方をもとめて～

主催：明和町大会実行委員会

日時：平成22年8月5日（木）13:00～17:00

場所：三重県明和町中央公民館

(三重県多気郡明和町大字馬之上 944-6)

参加費用：無料

① プログラム

【第1部 基調講演】

プラチヤー・ムシカシントーン博士

(タイ国カセートサート大学)

【第2部 話題提供】

(1) 子供から見た三重県祓川の環境保全活動

(2) 地域住民による祓川の環境保全活動

(3) ネコギギのすむ川

(4) 連携によるヒナモロコの保全

【第3部 ポスター発表(約30題)】

【第4部 パネルディスカッション】

② 申込方法

7/5 までに参加申込が必要です。当日参加はできません(先着300名)。

シンポジウム申込先：明和町役場 政策課

TEL 0596-52-7112 FAX 0596-52-7133

E-mail n-katou46@town.mie-meiwa.lg.jp

*申し込み期限：平成22年7月5日（月）



6.3 マングローブ・河口干潟の保全とその技術

フィールドシンポジウム

応用生態工学会・那覇

宮良 工 (財) 沖縄県環境科学

センター 総合環境研究所

平成21年度に設置された応用生態工学会・那覇では、2010年3月に実施した「沖縄地方の河川・干潟・マングローブの保全に関する研究会」を受け、2010年度のシンポジウムとして、以下の現地見学会・シンポジウムを企画しました。講演内容等、調整中の部分もありますが、詳細は学会ホームページ、8月発行のニュースレターでも紹介して参ります。

① 開催主旨

沖縄島では大規模なマングローブ林が現存する億首川をフィールドとして、地元生活者、生物系研究者と河川工学系研究者を講師として招聘し、ダム建設とマングローブ保全、河川整備とマング

ローブ保全をテーマとした課題を整理して今後の研究活動に活かし、一般及び関連行政に応用生態工学実践の重要性をアピールするとともに、地域生活者との交流を通して地域資源としての億首川を中心としたマングローブ・干潟の保全の重要性を発信することを目的とする。

② 開催者

主催：応用生態工学会・那覇

共催：財団法人 沖縄県環境科学センター、リュウキュウアユを蘇生させる会

後援：(調整中)

③ 開催日程・場所

【開催日】

- 平成22年8月20日(金)、21日(土)

【開催場所】

- 1) 現地観察会
 - 億首川, 億首ダム, 漢那福地川等
- 2) 懇親会
 - 金武町ネイチャーみらい館 コテージ
- 3) シンポジウム(最大40名、※講演内容未定)
 - 金武町ネイチャーみらい館 視聴覚室(40名)

■金武町ネイチャーみらい館

〒904-1201 沖縄県金武町字金武 11818-2

TEL : 098-968-611

HP : <http://nature-kin.com/>

④ 内容

【現地観察会】9:00~16:00

- 1) マングローブ植生について
- 2) 底生動物による健全度について
- 3) 地形について
- 4) その他

【シンポジウム講演内容】(※内容変更の場合有り)

- 1) マングローブ林の成立条件と億首川のマングローブ
中須賀 常雄(琉球大学農学部教授)
- 2) マングローブ林の水産上の役割と億首川のマング

ローブ

諸喜田 茂充(琉球大学名誉教授)

3) 億首川のマングローブ林と地域のみらい

外間 慎仁(ネイチャーみらい館理事長)

4) 億首ダムにおけるマングローブ林を指標とした正常流量の考え方

北部ダム事務所鍵田環境課長

5) マングローブによる河口水温の保全とその効果

大槻 順郎(九州大学大学院工学府)

6) マングローブ林における土砂動態・物質輸送

赤松 良久(山口大学大学院理工学研究科 准教授)

7) マングローブ林の保全と管理

鎌田 磨人(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス 研究部教授)

【総合討論】

- コーディネーター：鎌田磨人 徳島大学教授
- パネリスト：5名程度

6.4 第3回 近畿現地ワークショップ in 淀川

ー現地で応用！生態工学「河川下流域の管理と課題」～干潟・ワンドの応用生態工学～ー
応用生態工学会・大阪
厨子和典((有)水技研)

【フィールド】 淀川(大阪府)

【実施時期】 9月上旬(2日間)

【開催主旨】

第1回の河川上流・源流、第2回の河川中流に引き続いて、第3回の近畿現地ワークショップは、河川の下流域をテーマに開催します。フィールドは近畿地方を代表する河川である淀川とし、現地における干潟、ワンドなどの視察、ワークショップにおける研究発表、講演などを通して、河川下流域の現状と課題、最新の取り組みなどについての知見に触れ、今後の応用生態工学的な取組の方向性について議論する場を目指します。

7 編集後記・事務局から

7.1 今後の予定

6.17	第44回幹事会 (麴町：弘済会館)
6.22	多自然川づくり 第1回研修会 中予地区 (後援：応用生態工学会松山)
7.1~2	フィールドシンポジウム in 仙台 (応用生態工学会 仙台：仙台青年文化センター)
7.7	第53回理事会 (麴町：弘済会館)
7.13	多自然川づくり 第1回研修会 東予地区 (後援：応用生態工学会松山)
7.28	第3回札幌大会実行委員会 (札幌：かでる)
7月	平成23年度金沢大会 第1回大会実行委員会開催予定
8.3	多自然川づくり 第1回研修会 南予地区 (後援：応用生態工学会松山)
8月	ニュースレター49号発行
8.19~20	応用生態工学会 那覇 松山沖縄地方の河川・干潟・マングローブの保全に関するフィールドシンポジウム
8.31	多自然川づくり 第2回研修会 中予地区 (後援：応用生態工学会松山)
9月上旬	第3回近畿現地ワークショップ in 淀川 (大阪：淀川)
9.21	第14回札幌大会 エクスカーション
9.22	第14回札幌大会 エクスカーション, 研究発表 (ポスター), 自由集会 [委員会]
9.23	第14回札幌大会 研究発表(口頭), 分科会, 自由集会, 懇親会
9.24	第14回札幌大会 公開シンポジウム [役員会, 総会]
9.28	多自然川づくり 第2回研修会 東予地区 (後援：応用生態工学会松山・予定)
10.1~2	第9回北陸現地ワークショップ in 富山 (応用生態工学会 富山：富山県立大学)
10月 11-29日	COP10 (生物多様性条約 第10回締約国会議)
11月	応用生態工学会福岡 地域事例報告会:福岡市内 (予定)

※応用生態工学会 東京・広島は、活動計画を検討中

7.2 学会活動 近況

2010年度最初の大きな行事である「生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアプローチ」国際ワークショップが開催され、「生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアプローチ (アピール文)」を採択し、盛況のうちに無事終わることができました。改めまして、ご講演頂いた方々、後援・協力頂きました関係機関の皆様には、厚く御礼申し上げます。

今後は、本年10月のCOP10に向けて、採択したアピール文を広く国内外に発信し、流域圏の「景観・生息場の保全」「水・物質フラックスネットワークの健全化」「都市の責任」の重要性について、関係機関への情報の提供と連携の強化を進めて参ります。



事務局では、住所・連絡先変更の届け出がなかった会員への連絡・確認を進め、本年3月に概ね会員の皆様の登録情報の更新が完了しました。会員数も平成20年度末は初めての減少となったものの、平成21年度末には、設立以来、最も多い会員数1,241人となりました。また、減少が続いてきた賛助会員数・加入口数も、やっと減少傾向改善の兆しが見えてまいりました。

	総数	正会員	学生	名誉	賛助(口数)
H19末	1,211	1,099	109	3	37 (58)
H20末	1,169	1,091	75	3	33 (50)
H21末	1,241	1,141	96	4	33 (50)

今後は理事・幹事、各委員会の委員等の学会関係者が一体となって、応用生態工学の普及・確立と会員の皆様が当学会に所属する意義・メリットの充実を図るべく、中期計画を策定し、具体的な施策・活動を進めて参ります。

今後とも学会の活性化、活発な活動に向けた会員の皆様のご支援・ご協力の程、よろしく願いいたします。
(事務局：仮谷伏竜)

.....
[平成22年6月11日現在会員数]

名誉会員： 4名
正会員： 1,109名
学生会員： 93名 合計1,206名
賛助会員： 33法人 (49口)